

応用生態工学会 第 11 回総会資料

開催日時：平成 19 年 9 月 16 日（日）16：30～

会 場：名古屋大学 I B 電子情報館 2 F 大講義室

第 11 回総会議事次第

- 資料－1 一般経過報告
- 資料－2 会員状況報告
- 資料－3 総会・理事会・幹事会・委員会報告
- 資料－4 会誌「応用生態工学」編集報告
- 資料－5 平成 18 年度事業報告
- 資料－6 平成 18 年度決算報告
- 資料－7 平成 18 年度監査報告
- 資料－8 平成 19 年度事業計画
- 資料－9 平成 19 年度事業収支予算
- 資料－10 規約の改正
- 資料－11 役員の改選

<添付資料>

- ・ 役員名簿（第 5 期）
- ・ 規 約
- ・ 次期役員候補選考制度

応用生態工学会 第11回総会議事次第

開場（受付開始）

1. 開会 [司会：事務局長奥村興平]
2. 総会議長選出
3. 会長挨拶 [会長：山岸 哲]
4. 議事開始 [議長：]
- 1) 報告事項
平成18年度活動報告 [幹事長：江崎 保男]
 - (1) 一般経過報告（資料-1）
 - (2) 会員状況報告（資料-2）
 - (3) 総会・理事会・幹事会・委員会報告（資料-3）
 - (4) 会誌「応用生態工学」編集報告（資料-4）
- 2) 審議事項
 - (1) 第1号議案 平成18年度事業報告について（資料-5） [幹事長：江崎 保男]
 - (2) 第2号議案 平成18年度収支決算について
 - ① 決算報告（資料-6）
 - ② 監査報告（資料-7） [監事：田畑 日出男]
 - (3) 第3号議案 平成19年度事業計画について（資料-8） [幹事長：江崎 保男]
 - (4) 第4号議案 平成19年度事業収支予算について（資料-9）
 - (5) 第5号議案 規約の改正について（資料-10）
 - (6) 第6号議案 役員の改選について（資料-11）
5. 総会終了

一般経過報告

平成18年度(平成18年4月1日～平成19年3月31日)、併せて平成19年度(平成19年4月1日～)の7月末日現在までの応用生態工学会の一般経過を以下に報告する。

平成18年度応用生態工学会一般経過報告

- 4. 1 平成18年度開始
- 4. 13 光でんわ切り替え
- 4. 22 ICLEE2006OSAKA 実行委員会
- 4. 26 第5回北陸現地ワークショップ in 富山 第2回実行委員会
- 4. 26 後援行事((財)ダム水源地環境整備センター主催):貯水池水質保全国際セミナー(自然システムの利用を主として)(東京・星陵会館)
- 5. 11 小宮山会計事務所打合せ(事務局)
- 5. 24 JST 説明会(科学技術振興機構)
- 5. 29 普及委員会(麴町会議室)
- 6. 5 ICLEE2006OSAKA 実行委員会
- 6. 8 河川環境整備基金助成決定通知:5月29日付(200万円)
- 6. 10 シリーズ講習会(水環境学会九州支部との共催)開始
- 6. 14 交流委員会(麴町会議室)
- 6. 15-18 共催(ICLEE主催):「東アジアにおける生態系の修復」に関する国際会議(大阪・吹田市)
- 6. 21 幹事会第25回兼10周年記念大会実行委員会(麴町会議室)
- 6. 28 ニュースレター33号発行(研究発表会発表募集)
- 7. 1 第33回理事会(決算報告)
- 7. 7 英文誌共同発行国内学会座談会
- 7. 20-21 応用生態工学会札幌セミナー「本来の川を取り戻すために」
- 7. 25 会誌「応用生態工学」第9巻1号発行
- 8. 28-9. 1 後援行事:(国際生態モデリング学会日本支部・山口大学主催)
「生態モデリング国際会議2006in山口」(宇部市山口大学)
- 8. 25 ニュースレター34号発行(研究発表会プログラム、一般参加募集)
- 8. 24-9. 12 第26回幹事会(メール会議)
- 9. 13-22 第34回理事会(メール会議:ニュースレター35号参照)
- 9. 28 後援行事:「水源地生態研究セミナー」 星陵会館
- 9. 29-10. 1 10周年記念東京大会:東京大学農学部弥生講堂(ニュースレター35号参照)
- 9. 29-30 第10回研究発表会,表彰式
- 9. 29 第27回幹事会:東京大学農学部、拡大編集委員会:東京大学農学部弥生講堂
- 9. 30 第10回総会
- 10. 1 10周年記念シンポジウム「土木工学と生態学の壁はとりのぞかれたか?」
(公開)[河川整備基金助成事業](ニュースレター35号参照)
- 10. 20-21 第5回北陸ワークショップ in 富山「里地・里山のいのちを育む技術をめざして

- ～森と水の生きもののために～」(ニュースレター35号参照)
11. 6 普及委員会(相談窓口、CPD、ポスター案などについて意見交換)
11. 9 第28回幹事会:利根川歴史研究会会議室(ニュースレター35号参照)
11. 10-11 第3回東北現地ワークショップ in 盛岡「東北地域における生物多様性と生物資源の持続的な利用を目指して」(ニュースレター36号参照)
11. 18 後援:「第2回淡水魚保全シンポジウム-ざわめく自然をめぐる湧水保全フォーラムゆざー」
12. 1 「応用生態工学会福岡2006-九州の応用生態工学の事例と研究」 福岡市九州大学国際研究交流プラザ(ニュースレター36号参照)
12. 9 第35回理事会:利根川歴史研究会会議室(ニュースレター35号参照)
12. 18 東京地域活動打合せ:利根川歴史研究会会議室
12. 20 会誌「応用生態工学」第9巻2号発行
1. 9 ニュースレター35号発行(平成19年度会費請求および会誌「応用生態工学」10周年記念特集号(第10巻1号)への広告掲載募集同封)
1. 25 情報サービス委員会(ホームページリニューアルについて)
1. 26-28 共催:汽水域国際シンポジウム 2007「汽水域の再生とその持続可能性-宍道湖・中海の賢明な利用にむけて」 松江 くにびきメッセ国際会議場
1. 31 河川整備基金助成申請(平成19年度公開シンポジウムについて)
2. 9 第11回名古屋大会第1回実行委員会(名古屋大学)
2. 10 第6回北陸ワークショップ in 新潟準備打合せ(学会事務局:千代田区麹町)
3. 8 臨時理事会(ICLEEと三学会合同大会について)(ニュースレター36号参照)
3. 12 事務局移転先(麹町ロイヤルビル405号室:千代田区麹町4-7-5)契約

平成 19 年度応用生態工学会一般経過報告

4. 1	平成 19 年度開始
4. 5	情報サービス委員会ホームページリニューアル業者打合せ：応用生態工学会事務局
4. 14-15	事務局移転(第 7 麹町ビル 25 号室から麹町ロイヤルビル 405 号室)
4. 19	ニュースレター36 号発行（臨時理事会、盛岡と福岡の行事、寄稿）
4. 26	普及委員会：応用生態工学会会議室
5. 11	第 11 回名古屋大会第 2 回実行委員会(名古屋大学)
5. 15	第 29 回幹事会(平成 18 年度決算報告、平成 19 年度事業計画、役員改選、第 11 回大会他)
5. 24	第 36 回理事会(平成 18 年度決算報告と平成 19 年度事業計画、役員改選、第 11 回大会他)
6. 21	第 6 回北陸ワークショップ in 新潟実行委員会(新潟市)
6. 27	交流委員会（海外学会派遣応募者の選考ほか）
6. 28	ニュースレター37 号発行（第 11 回名古屋大会開催案内ほか）
7. 19	第 11 回名古屋大会第 3 回実行委員会(名古屋大学)
7. 24	第 30 回幹事会（第 1 1 回総会資料、専門委員会の提案ほか）
(以下、今後の予定)	
8 月上旬	第 37 回理事会（第 1 1 回総会資料、役員改選ほか）
8. 24-26	日韓合同セミナー「河川の自然再生事業+標津川(北海道標津町)の蛇行見学」交流委員会主催
8. 27-28	札幌セミナー「本来の川を取り戻すためにその 3」～生息場をつくる川の流れ～
9. 15-16	第 30 回幹事会、第 37 回理事会（総会資料確認）、各委員会
9. 15-9. 17	第 11 回名古屋大会：名古屋大学東山地区
9. 15, 17	第 11 回研究発表会、ミニシンポジウム、エクスカージョン
9. 16	第 11 回総会、ポスターセッション・表彰式
9. 16	公開シンポジウム「生命の水を人と生物はいかに分かちあうか？(仮称)」[河川整備基金助成事業]
9. 19	特別講演会「生命の川」：ホテルルポール麹町
9 月下旬	共催：ニュースレター38 号発行（第 11 回名古屋大会報告）
10. 19-20	第 6 回北陸現地ワークショップ in 新潟
11 月	第 4 回東北現地ワークショップ
12 月	第 2 回九州地区事例発表会
12 月中旬	ニュースレター39 号発行（行事報告等）
12-1 月	第 31 回幹事会、第 38 回理事会
2 月下旬	ニュースレター40 号発行（会費納入依頼）
3 月	第 32 回幹事会（平成 20 年度事業計画・予算案）
3 月	第 39 回理事会（平成 20 年度事業計画・予算案）

会員状況報告(平成19年7月31日現在)

—— 入会者 ——

正・学生会員

平成9年度入会 No. 1001～1048 (48名)
No. 7001～7692 (欠番1、691名)

平成10年度入会 No. 8001～8171 (171名)

平成11年度入会 No. 9001～9101 (101名)

平成12年度入会 No. 20001～20123 (123名)

平成13年度入会 No. 21001～21108 (108名)

平成14年度入会 No. 22001～22121 (121名)

平成15年度入会 No. 23001～22128 (欠番1、127名)

平成16年度入会 No. 24001～24118 (118名)

平成17年度入会 No. 25001～25110 (欠番1、109名)

平成18年度入会 No. 26001～26089 (89名)

平成19年度入会 No. 27001～27053 (53名)

計 1,859 名

賛助会員

No. 101～156 (56 法人)

No. 157～160 (4 法人)

No. 161～163 (3 法人)

(無し)

No. 164～165 (2 法人)

No. 166 (1 法人)

(無し)

No. 167～170 (4 法人)

No. 171 (1 法人)

(無し)

No. 172 (1 法人)

計 72 法人

—— 退会者 ——

正・学生会員

平成9年度: 正・学生会員 3名

平成10年度: 正・学生会員 8名

平成11年度: 正・学生会員 62名

平成12年度: 正・学生会員 81名

平成13年度: 正・学生会員 42名

平成14年度: 正・学生会員 61名

平成15年度: 正・学生会員 92名

平成16年度: 正・学生会員 102名

平成17年度: 正・学生会員 97名

平成18年度: 正・学生会員 61名

平成19年度: 正・学生会員 45名

計 654 名

賛助会員

賛助会員 3 法人

賛助会員 1 法人

賛助会員 2 法人

賛助会員 5 法人

賛助会員 4 法人

賛助会員 2 法人

賛助会員 1 法人

賛助会員 6 法人

賛助会員 7 法人

賛助会員 7 法人

計 31 法人

平成18年度末現在の会員数

正・学生・名誉会員 1,187名 賛助会員 46 法人 (69 口)

平成19年7月31日現在の会員数

正・学生・名誉会員 1,205名 賛助会員 41 法人 (63 口)

【内、正会員: 1116名】

1 口: 26 法人

2 口: 8 法人

3 口: 7 法人

(なお、年会費を2ヶ年滞納し、2007年度年会費を振り込んでいないものは、退会手続きを、5月末に行った。)

—— 国際英文誌購読会員数 ——

平成18年度末時点 131名

平成19年7月31日現在 133名

総会・理事会・幹事会報告

1) 総会

- 平成 18 年 9 月 30 日 (土) 16:30-17:20 東京大学農学部弥生講堂 一条ホール
内容はニュースレター35号に掲載

2) 理事会

- 第 33 回 平成 18 年 7 月 1 日 (土) 14:00-16:20 応用生態工学会会議室別室
内容はニュースレター34号に掲載
- 第 34 回 平成 18 年 9 月 14 日 (木) 第 10 回総会資料についてメール会議
内容はニュースレター35号に掲載
- 第 35 回 平成 18 年 12 月 9 日 (木) 10:00-12:00 利根川歴史研究会会議室
内容はニュースレター35号に掲載
- 臨時 平成 19 年 3 月 8 日 (木) 13:00-15:00 利根川歴史研究会会議室
内容はニュースレター36号に掲載

3) 幹事会

- 平成 18 年 6 月 21 日 (水) 16:00-17:30 応用生態工学会会議室別室
内容はニュースレター33号に掲載
- 第 27 回 平成 18 年 9 月 29 日 (金) 12:05-13:00 東京大学農学部 1 号館 地階生物実験室
内容はニュースレター35号に掲載
- 第 28 回 平成 18 年 11 月 9 日 (木) 15:00-17:00 利根川歴史研究会会議室
内容はニュースレター35号に掲載

委員会報告

1) 会誌編集委員会

- 平成 18 年 9 月 29 日 (金) 18:00-19:00 東京大学農学部弥生講堂会議室
内容はニュースレター35号に掲載。

2) 普及委員会

- 平成 18 年 5 月 29 日 (月) 14:30-17:30 応用生態工学会会議室別室
内容はニュースレター33号に掲載
- 平成 18 年 11 月 6 日 (月) 14:00-17:00 利根川歴史研究会会議室
内容はニュースレター35号に掲載

3) 交流委員会

- 平成 18 年 6 月 14 日 (水) 14:30-16:00 応用生態工学会事務局
内容はニュースレター33号に掲載

4) 情報サービス委員会

- 平成 19 年 1 月 25 日 (木) 10:00-12:00 利根川歴史研究会会議室
ホームページリニューアルについて意見交換・検討
コンテンツ充実(委員会・若手の会等の情報、会誌等のデータベース化)や維持管理について
メールによる情報収集等を継続し、平成 19 年度事業計画に提案する。

会誌「応用生態工学」編集報告

平成19年8月15日現在

1) 会誌発行状況

- 1 巻1号:平成10年11月30日発行
 2 巻1号:平成11年5月31日発行 特集「河川の自然復元」
 2 巻2号:平成11年11月19日発行 特集「ダム構造物の影響」
 3 巻1号:平成12年7月21日発行 特集「日本の沿岸環境保全」
 3 巻2号:平成12年12月21日発行 特集「魚道の機能評価」
 4 巻1号:平成13年7月17日発行 ミニ特集「健全な河川とは?」
 4 巻2号:平成13年12月27日発行
 5 巻1号:平成14年8月10日発行 特集「長良川河口堰の影響に関するモニタリング評価」
 5 巻2号:平成15年2月28日発行 特集「河川環境の保全と復元」
 6 巻1号:平成15年8月31日発行 特集「東アジア太平洋地域の河川復元に向けて」
 6 巻2号:平成16年3月31日発行 小特集「河川・都市における外来種問題とその対策」
 7 巻1号:平成16年8月30日発行
 7 巻2号:平成17年1月30日発行 特集「標津川再生事業の概要と再蛇行化実験の評価」
 8 巻1号:平成17年8月8日発行 特集「森・川・海の自然連鎖系を重視した有明海・八代海の再生」
 8 巻2号:平成18年1月30日発行 特集「野生生物の生息・生育適地推定と保全計画」

9 巻1号:平成18年7月25日発行

9 巻2号:平成18年12月20日発行

・9 巻1号内容

掲載論文数7本(101頁)(原著3、事例研究3、総説1、その他巻頭言、書評)

・9 巻2号(予定)

特集なし。掲載論文数6本(90頁)(原著6、事例研究1、書評)

10 巻1号:平成19年10月発行予定 10周年記念特集号

特集「土木工学と生態学の壁はとりのぞかれたか?」

10 巻2号:平成19年12月発行予定

特集なし。掲載論文数8本(原著8、総説1、書評)

2) 論文投稿状況(平成19年8月15日現在)

平成 年	総数	受理数	却下数	校閲中数	(英文, 和文)
10	19	18	1	0	(1, 17)
11	25	24	1	0	(2, 22)
12	34	30	2	0	(0, 34)
13	34	27	7	0	(2, 32)
14	24	17	7	0	(6, 18)
15	27	21	6	0	(4, 23)
16	24	21	3	0	(1, 23)
17	37	27	8	2	(1, 36)
18	20	2	3	15	(1, 19)
19	24				

(注:却下数にはc判定で未投稿を含む)

第1号議案

平成18年度 事業報告

2006年度は、2006年4月1日から既にスタートしている。2006年度の事業計画及び予算については、2006年3月16日の理事会(ニュースレター No. 33 で報告)および2006年7月1日の理事会において検討審議された。以下、2006年度のこれまでの活動実施報告を含めて事業計画を示す。

1. 会誌の発行

9巻1号(2006年7月25日 既刊)、特集「野生生物の生息適地推定と保全計画」

9巻2号(2006年12月12月20日発行)

以降の特集予定

- ・「実用を目的とした水域の生態モデルとその実用化の現状と今後の展望」(仮題)
- ・「河川における水際環境の構造と機能の評価」(課題)

2. ニュースレターの発行

No.33 (2006年6月28日発行): 第10回大会案内等

No.34 (2006年8月25日発行): 大会プログラムを同封

No.35 (2007年1月9日発行): 大会報告、行事報告、会費納入依頼等

No.36 (2007年4月19日発行): 寄稿「学会の今後の展望」、行事報告、等

3. ワークショップ等の開催

<方針>

普及委員会行事と限定せず、地域研究会および各委員会の積極的な活動により普及および研修の企画を立て実施する。

また、後援に関しては応用生態工学研究および普及に資する行事であれば、学会名の周知の機会でもあるので名義使用を許可し、広報等に協力する。

● 主催・共催行事

- ① (共催)「東アジアにおける生態系の修復」に関する国際会議 6/16-18 255名参加 ホテル阪急エキスポパーク
- ② (共催: 水環境学会九州支部) シリーズ講習会「生物が減少した真の理由とその対策」全6回 6/10, 7/1, 9/2, 11/4, 12/2, 2/3 九州大学ほか
- ③ 応用生態工学会札幌「本来の川を取り戻すために... その2～自然再生を拓く河床低下対策～」 7/20-21 97名参加 現地(真駒内川・夕張川などおよび南幌温泉)

.....ここまで終了

- ④ 応用生態工学会富山 第5回北陸ワークショップ in 富山「里地・里山のいのちを育む技術をめざして～森と水の生きもののために～」10/20-21 現場および富山市明治安田生命ホール
- ⑤ 応用生態工学会仙台 第3回東北ワークショップ in 盛岡「東北地区における生物多様性の保全・再生の技術・手法」岩手大学同窓会館
- ⑥ 応用生態工学会福岡 九州地区事例発表会 11/17 九州大学国際交流研究プラザ

● 後援行事

- ① 貯水池水質保全国際セミナー「自然システムの利用を主として」 4/26 (財団法人ダム水源地環境整備センター)
- ② 「生態モデリング国際会議 ICEM2006」 2006/8/28-9/1 (山口大学)
- ③ 第9回水源地生態研究セミナー「貯水池の生態学」 9/28 (東京・星陵会館)
- ④ (社)日本環境アセスメント協会九州支部「研修セミナー」および「現地見学会」 10/19-20 (鹿児島市および桜島)
- ⑤ 第2回淡水魚保全シンポジウム「ざわめく自然をめぐる湧水保全フォーラムゆざ」 11/18 (遊佐町中央公民館ホール)

4. 国際交流・海外学会等への派遣 (交流委員会)

2006年5月に募集を開始し、5名の応募があった。6月に交流委員会を開催し派遣者の選定と助成額を検討し、7月1日の理事会において下記のとおり派遣を決定した。

- (1) (派遣先) 54th North American Benthological Society Annual Meeting 2006年6月4～9日 アメリカ合衆国・アンカレッジ
(派遣研究員) 1名——渡航費として10万円を助成
- (2) (派遣先) International Conference on “River Hydroecology: Advances in Research and Applications” 2006年8月14～18日 スコットランド・スターリング
(派遣研究員) 2名——渡航費として2名合計20万円を助成

5. 公開シンポジウムの開催

本年度は10月1日に、応用生態工学会設立10周年記念大会の一環として、「土木工学と生態学の壁はとりのぞかれたか？」をテーマに公開シンポジウムを開催する。

開催にあたって河川整備基金を「応用生態工学会シンポジウム『土木工学と生態学の壁はとりのぞかれたか(仮称)実施事業』として申請し、2006年5月29日付けで、200万円の助成が決定された。

招聘講師は、スイス連邦 環境科学技術研究所(EAWAG) チームリーダー クレメント・トクナー博士である。

6. その他

- (1) 英文誌共同発行国内学会との連携

7月に日本緑地工学会、日本景観生態学会の会長と座談会を行い、今後の連携のあり方について話しあう。座談会の様子は会誌の10周年記念特集などの形で会員に知らせる。

- (2) 学会誌過去掲載論文の電子化

会誌「応用生態工学」をJSTを利用して電子化、公開することを目的にJSTへの利用申請を行い、具体的な検討を行う。

第2号議案

平成18年度 決算報告

1. 決算について

決算報告として、

- (1)「平成18年度収支報告書」、(2)「正味財産増減計算書」
(3)「貸借対照表」、(4)「財産目録」

および、(5)「過去2年間の決算推移および平成18年度決算」として決算の概要を示した。
全般として、収支に大きな変動はなく、黒字を得て、次年度への繰越額は、1,033,379円増加し、18,993,570円となった。

ただし、賛助会員（総収入の約4割）の減少傾向が出てきており、対応が求められる。

以下、収支において主要・重要事項について報告する。

2. 収入について

1) 会費収入

会員からの年会費の収入については、平成18年度は9,267,250円となり、予算額12,800,000円とかなり下回った。これは、賛助会員の退会（7社、12口）および、賛助会費の納入遅延による。納入遅延については、賛助会員への請求書の送付が3月の初めとなってしまったことによる。ただし、平成19年度9月現在この遅延分は納入されており、平成19年度収入としている。

なお、新会員の増加により正会員の年会費収入は約40万円増加している。

2) 事務所移転関係

応用生態工学会の事務所は2007年4月16日に移転した。移転の理由は、麴町ビルが解体、新ビル建設にともなう家主都合による。その関係費用として、

収入：	①敷金	100万円の100%返還
	②移転補償費	77万円
	計	177万円

支出：	①新事務所礼金	12万6千円
	②敷金	24万円
	③仲介手数料	24万円
	計	60万6千円

（なお、引越し経費184,800円は4月支払いのため、平成19年度経費とした。）

以上より、事務所移転経費については、計で約100万円の増収となった。

3) 助成金収入（河川整備基金および地域活動における協賛金

平成18年度は、

- | | |
|---|-------|
| ①平成18年度河川整備基金 | 200万円 |
| （事業名：「応用生態工学会公開シンポジウム『土木工学と生態学の壁はとりのぞかれたか（仮称）』」 | |
| ②（財）富山県高等教育振興財団助成金 | 15万円 |
| ③（社）北陸建設弘済会協賛金 | 15万円 |

以上、3件計230万円の助成を得られた。

3. 支出について

1) 事業費（地域の講座開催）

各地域の経費は、

	収入	支出	
(1)講座 1（北陸富山）	475,500 円	907,635 円	（ただし、他に助成金 30 万）
(2)講座 2（仙台）	540,500 円	667,135 円	
(3)講座 3（福岡）	118,000 円	281,614 円	
(4)講座 4（札幌）	1,164,062 円	1,228,296 円	

となっている。支出のが多くなる場合について目安を検討する必要があるとの議論があった。

2) 大会費

大会の経費は、

・収入：	①参加費（講座 5）	1,868,750 円	
	②河川整備基金助成	2,000,000 円	計 3,868,750 円
・支出：	①大会支出合計	3,024,385 円	

であり、プラス決算を得た。

4. 収支について

平成 18 年度（2006 年 4 月 1 日から 2007 年 3 月 31 日）の収支については、

①当年度	総収入	19,914,350 円（当会 18,621,100 円＋LEE1,293,250 円）
	総支出	18,880,971 円（当会 17,798,046 円＋LEE1,082,925 円）

となり、前年度からの繰越金 17,960,191 円を加えて、

②次年度への繰越金は、	18,993,570 円
-------------	--------------

で、この繰越金は、1,033,379 円増加している。

なお、賛助会員会費の入金状況を平成 9 年度（会の発足）以来について示すと、下表のとおり減少傾向が顕著に出てきている。なお、平成 18 年度の減少は会員数の減少(12 口)および請求遅れによる入金遅延が原因であり、平成 19 年度に入金(550 万円)いただいている。

表 賛助会員会費入金状況（平成 19 年度は 8 月末時点）

平成 年度	入金額(円)	会員 ((口数)	平成 年度	入金額(円)	会員 ((口数)
9	10,200,000	55 (81)	1 4	7,600,000	55 (82)
1 0	7,700,000	57 (82)	1 5	8,299,160	51 (77)
1 1	12,900,000	60 (87)	1 6	8,798,950	53 (81)
1 2	8,900,000	60 (87)	1 7	7,500,000	53 (81)
1 3	9,000,000	60 (87)	1 8	3,200,000	46 (69)
			1 9	5,500,000	41 (63)

(1) 平成18年度 収支報告書

自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日

収入の部

(単位=円)

科 目	平成18年度 予 算 額 (A)	平成18年度 実 績 額 (B)	増減の対比 (A) - (B)	備 考
1. 会 費 収 入	12,800,000	9,267,250	3,532,750	
(1) 正 会 員 会 費	5,500,000	5,918,250	△ 418,250	
(2) 学 生 会 員 会 費	200,000	149,000	51,000	
(3) 賛 助 会 員 会 費	7,100,000	3,200,000	3,900,000	
2. 雑 収 入	420,000	1,350,068	△ 930,068	
(1) 会 誌 編 集 収 入	300,000	485,826	△ 185,826	
(2) 広 告 収 入	0	0	0	
(3) 受 取 利 息 等	120,000	864,242	△ 744,242	
3. 事 業 収 入	4,030,000	4,703,782	△ 673,782	
(1) 講 座 1 参 加 費	700,000	475,500	224,500	北陸WS in 富山
(2) 講 座 2 参 加 費	500,000	540,500	△ 40,500	東北WS in 盛岡
(3) 講 座 3 参 加 費	500,000	118,000	382,000	九州地区事例発表会
(4) 講 座 4 参 加 費	200,000	1,164,062	△ 964,062	札幌セミナー
(5) 講 座 5 参 加 費	1,800,000	1,868,750	△ 68,750	総会・研究発表会
(6) 会 誌 団 体 購 読 収 入	130,000	160,000	△ 30,000	
(7) 会 誌 等 販 売	200,000	376,970	△ 176,970	
4. 英 文 誌 関 連 収 入	1,077,650	1,293,250	△ 215,600	
(1) LEE 購 読 料	867,650	908,250	△ 40,600	
(2) LEE 広 告 掲 載 収 入	210,000	385,000	△ 175,000	
5. 助 成 金 収 入	2,200,000	2,300,000	△ 100,000	
(1) 河 川 整 備 基 金 収 入	2,000,000	2,000,000	0	
(2) 富 山 助 成 金	200,000	300,000	△ 100,000	
6. 敷 金 戻 り 収 入	0	1,000,000	△ 1,000,000	
当 期 収 入 合 計	20,527,650	19,914,350	613,300	
前 期 繰 越 収 支 差 額	17,960,191	17,960,191	0	
収 入 合 計	38,487,841	37,874,541	613,300	

自 平成 18 年 4 月 1 日

至 平成 19 年 3 月 31 日

支出の部 1.

(単位=円)

科 目	平成 18 年度 予 算 額 (A)	平成 18 年度 実 績 額 (B)	増 減 の 対 比 (A) - (B)	備 考
1. 管 理 費	5,139,000	5,454,562	△ 315,562	
(1) 家 賃、水 道 光 熱 費	1,680,000	2,285,890	△ 605,890	
(2) リ ー ス 料	466,200	536,865	△ 70,665	
(3) 通 信 費	310,300	365,438	△ 55,138	
(4) 旅 費 交 通 費	600,000	473,080	126,920	
(5) 文 具 消 耗 品 費	500,000	417,654	82,346	
(6) 事 務 局 給 与	900,000	728,092	171,908	
(7) 顧 問 料	467,500	530,250	△ 62,750	
(8) 支 払 手 数 料	25,000	15,933	9,067	
(9) 図 書 費	50,000	0	50,000	
(10) 租 税 公 課	70,000	70,000	0	
(11) 雑 費	70,000	31,360	38,640	
2. 事 業 費	14,882,000	12,343,484	2,538,516	
イ. 会 誌 編 集 費	6,430,000	4,270,326	2,159,674	
(1) 会 誌 編 集 費	5,630,000	3,647,901	1,982,099	
(2) ニュースレター編集費	800,000	622,425	177,575	
ロ. 会 員 募 集 費	50,000	0	50,000	
(1) 通 信 費	20,000	0	20,000	
(2) 印 刷 費	30,000	0	30,000	
ハ. 会 議 費	1,850,000	1,041,754	808,246	
(1) 総 会 費	50,000	69,261	△ 19,261	
(2) 理 事 会 費	950,000	416,783	533,217	
(3) 幹 事 会 費	850,000	555,710	294,290	
ニ. 委 員 会 活 動 費	1,200,000	951,167	248,833	
(1) 委 員 会 関 係 費	900,000	851,167	48,833	
(2) 海 外 派 遣 費	300,000	100,000	200,000	
ホ. 大 会 費	3,352,000	3,024,385	327,615	
(1) 公 開 シ ン ポ ジ ウ ム	2,296,000	1,896,280	399,720	河川整備基金充当
(2) 研 究 発 表 会	756,000	713,010	42,990	
(3) 懇 親 会	300,000	415,095	△ 115,095	
ヘ. 講 座 実 施 費	2,000,000	3,055,852	△ 1,055,852	
(1) 講 座 1 費 用	700,000	907,635	△ 207,635	北陸WS in 富山
(2) 講 座 2 費 用	500,000	667,135	△ 167,135	東北WS in 盛岡
(3) 講 座 3 費 用	500,000	218,386	281,614	九州地区事例発表会
(4) 講 座 4 費 用	200,000	1,228,296	△ 1,028,296	札幌セミナー
(5) 講 座 諸 雑 費	100,000	34,400	65,600	
3. 英 文 誌 関 連 費	1,104,450	1,082,925	21,525	
(1) 英 文 誌 購 読 料	954,450	1,082,925	△ 128,475	
(2) ICLEE 事務局維持費	150,000	0	150,000	
4. 予 備 費	17,960,191	0	17,960,191	
当 期 支 出 合 計	39,085,641	18,880,971	20,204,670	
当 期 収 支 差 額	△ 18,557,991	1,033,379	△ 19,591,370	
次 期 繰 越 収 支 差 額	0	18,993,570	△ 18,993,570	

注. 次期繰越収支差額の内訳は、次のとおりである。

(単位=円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現 金 預 金	16,966,521	18,019,314
未 収 入 金	1,000,000	1,000,000
計	17,966,521	19,019,314
未 払 金	0	0
仮 受 金	0	0
預 り 金	6,330	25,744
計	6,330	25,744
次期繰越収支差額	17,960,191	18,993,570
当期収支差額		1,033,379

(2) 正味財産増減計算書

自平成18年4月1日 至平成19年3月31日

(単位=円)

科 目	金 額		
I. 増 加 の 部			
1. 資 産 増 加 額			
当 期 収 支 差 額		1,033,379	
2. 負 債 減 少 額		0	
増 加 額 合 計			1,033,379
II. 減 少 の 部			
1. 資 産 減 少 額			
敷 金 減 少 額		1,000,000	
2. 負 債 増 加 額		0	
減 少 額 合 計			1,000,000
当 期 正 味 財 産 増 加 額			33,379
前 期 繰 越 正 味 財 産 額			21,084,320
期 末 正 味 財 産 合 計 額			21,117,699

(3) 貸借対照表
(平成19年3月31日現在)

(単位 = 円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【 流 動 資 産 】	19,019,314	【 流 動 負 債 】	25,744
現 金	165,544	預 り 金	25,744
普 通 預 金	4,325,311	負 債 合 計	25,744
振 替 貯 金	8,528,459		
定 額 預 金	5,000,000		
未 収 入 金	1,000,000		
【 固 定 資 産 】	2,124,129		
什 器 ・ 備 品	765,759		
電 話 加 入 権	76,440		
商 標 権	1,281,930		
		正 味 財 産 の 部	
		【 正 味 財 産 】	21,117,699
		正 味 財 産	21,117,699
		(うち正味財産増加額)	33,379
		正 味 財 産 の 部 合 計	21,117,699
資 産 合 計	21,143,443	負 債 及 び 資 産 合 計	21,143,443

(4) 財産目録
(平成19年3月31日現在)

資 産 の 部

(単位 = 円)

科 目	摘 要	金 額
現 金		165,544
普 通 預 金	三 菱 東 京 U F J 銀 行 麹 町 中 央 支 店	2,742,217
同	み ず ほ 銀 行 天 満 橋 支 店	353,898
同	北 洋 銀 行 北 七 条 支 店	50,752
同	福 岡 銀 行 渡 辺 通 支 店	469,176
同	三 菱 東 京 U F J 銀 行 柳 橋 支 店	709,268
	普 通 預 金 計 (	4,325,311)
振 替 貯 金	(東 京) 00140-7-404275	8,521,419
同	(仙 台) 02280-8-92496	6,040
通 常 預 金	(東 京) 89535861	1,000
	郵 便 貯 金 計 (	8,528,459)
定 額 預 金	@ ¥ 1,000,000 - × 5 口	5,000,000
	定 額 預 金 計 (	5,000,000)
未 収 入 金	河 川 整 備 基 金	1,000,000
	未 収 入 金 計 (	1,000,000)
什 器 ・ 備 品	パ ソ コ ン 3 台	765,759
電 話 加 入 権	事 務 局 電 話	76,440
商 標 権	商 標	1,281,930
資 産 合 計		21,143,443

負 債 の 部

科 目	摘 要	金 額
預 り 金	源 泉 所 得 税	25,744
負 債 合 計		25,744
差 引 正 味 財 産		21,117,699

(5) 応用生態工学会 平成9年度(発足)以来の決算経過総括表

「助成金」は河川整備基金の助成金およびその対象の支出を示す。

		【総収入】	【総支出】	【繰越】
VIII. 平成16年度				
(予算)	(一般)	18,295,000	18,295,000	
	(助成金)	1,500,000	1,500,000	
	単年度計	19,795,000	19,795,000	
	(繰越)	11,763,763	0	
	(計)	31,558,763	19,795,000	11,763,763
(決算)	(一般)	22,453,474	17,259,986	
	(助成金)	1,500,000	1,512,445	
	単年度計	23,953,474	18,772,431	収支差額 5,181,043
	(繰越)	11,763,763	0	
	(計)	35,717,237	18,772,431	(平成17年度への繰越) 16,944,806
IX. 平成17年度				
(予算)	(一般)	20,242,000	20,242,000	
	(助成金)	2,000,000	2,000,000	
	単年度計	22,242,000	22,242,000	
	(繰越)	16,944,806	0	
	(計)	39,186,806	22,242,000	16,944,806
(決算)	(一般)	18,818,491	17,678,179	
	(助成金)	2,000,000	2,124,927	
	単年度計	20,818,491	19,803,106	収支差額 1,015,385
	(繰越)	16,944,806	0	
	(計)	37,763,297	19,803,106	(平成18年度への繰越) 17,960,191
X. 平成18年度				
(予算)	(一般)	17,250,000	17,821,000	
	(助成金)	2,200,000	2,200,000	
	単年度計	19,450,000	20,021,000	-571,000
	(繰越)	17,960,191	0	
	(英文誌特)	1,077,650	1,104,450	-26,800
	(計)	38,487,841	21,125,450	17,362,391
(決算)	(一般)	15,321,100	15,498,046	
	(助成金)	2,300,000	2,300,000	
	(敷金戻り)	1,000,000		
	当年度計	18,621,100	17,798,046	823,054
	(繰越)	17,960,191	0	収支差額
	(英文誌特)	1,293,250	1,082,925	210,325
	(計)	37,874,541	18,880,971	(平成19年度への繰越) 18,993,570

監査報告書

規約第13条により、平成18年度（2006年度）決算報告書
について関係帳簿及び証拠書類と対照監査した結果、正確であるこ
とを認めます。

平成19年9月 3 日

監事

加藤 昭 

監事

田 畑 日出男 

第3号議案

平成19年度 事業計画

(1) 事務局管理関係

- 第7麹町ビル建替えに伴い事務局を移転する(費用・利便性、スペース有効利用を考慮)。
- ニュースレター発行(年4回)
- 普及委員会・交流委員会等企画の地域講座の際の広報・会員募集
- 各種関連学会行事の後援(広報協力)
- 名簿作成(印刷配布)は行わない

(2) 会議関係

- 総会(大会時)、理事会(5月、9月、12月、3月)、幹事会(原則理事会の前)

(3) 会誌編集関係

- 会誌編集(原稿やり取り業務の簡素化、郵送料削減)のため、原則として電子ファイルでの投稿への変更およびJ-Stage利用を進める(前年度理事会で50万円承認)
- 過去学会誌の公開用電子データ作成
 - ・情報サービス委員会のホームページリニューアルに合わせて既往会誌のpdf化を進める
- 年2回発行を継続。
 - ・特集等予定 10巻1号:10周年記念大会特集
 - ・10巻2号は平成19年内に発行予定、増刊は行わない。

(4) 大会関係

- これまで10年間に構築した技術を礎に新たな飛躍をめざす年として名古屋大会を実施
- 3日間のプログラムとメニューおよび実行委員体制はニュースレター37号掲載。
- 2日目(9月16日(日))の午後に公開シンポジウムを行う。
- 公開シンポジウムタイトル(テーマ)「生命の水を人と生物はいかに分かちあうか？」
招待講演:サンドラ・ポステル氏 [Rivers for Life]
- 3日目(9月17日(月))は矢作川関連の企画とし、午前に「パートナーシップ分科会」、午後に「エクスカーション」を行う。

(5) それ以外の事業(各地での講座)関係(予定)

☆交流委員会主催:日韓合同セミナー:平成19年8月24-26日

テーマ:河川の自然再生事業+標津川(北海道標津町)の蛇行見学

☆応用生態工学会札幌:札幌セミナー:平成19年8月27-28日

テーマ:本来の川を取り戻すために... その3 ~生息場をつくる川の流れ~

共催:(独法)土木研究所 寒地土木研究所

☆応用生態工学会新潟:第6回北陸現地ワークショップ in 新潟:平成19年10月19-20日

テーマ:信濃川と越後平野の水系ネットワーク~郷土の生きものを育む技術~

☆応用生態工学会仙台:第4回東北現地ワークショップ in **

☆応用生態工学会福岡:事例発表会

[これらの事業は個々に、原則として収入と支出は同額となるように努める。]

(6) ICLEE 関係

- 平成18年度に儲けた学生購読料金をニュースレターなどで広報して学生購読者の増加を図る。
- 購読者増加のための宣伝に努める。

第4号議案

平成19年度 事業収支予算

(1) 一般会計

1) ホームページ改修

応用生態工学会の広報・宣伝および会員サービスのためホームページの充実は費用対効果に配慮しつつ進める。

① 情報サービス委員会提案

別途提案のとおり、年次を追って段階的に進める。普及委員会などとの調整を行う。

② 編集委員会提案との調整

J-Stage（独立行政法人科学技術振興機構）での過去論文の公開に係る検討との調整を行う。

2) 管理費・事業費（一般活動費、収益事業費）はこれまでの実績を元に計上する。ただし、会誌編集に関しては電子ファイルの投稿による郵送費及びアルバイト代の削減を見込む。

3) 海外派遣費 30 万円を計上する。

(2) 英文誌関係費は特別予算とする（第 30 回理事会指摘事項）

(3) 予算案作成結果（下表参照）

表 平成 19 年度予算案

当期収入		当期支出	
一般会計		一般会計	
会費収入	14,513,000	管理費	5,492,500
雑収入	622,000	事業費(一般活動費)	12,848,180
事業収入	4,130,000	会誌編集	5,630,000
研究発表会	1,800,000	ニュースレター	800,000
その他	2,330,000	会議費	1,600,000
助成金収入	2,100,000	委員会活動費	1,200,000
河川整備基金	2,000,000	広報等経費	50,000
新潟	100,000	研究発表会	1,298,700
		公開シンポジウム	2,069,480
		ポスター作成費	200,000
		その他収益事業	2,000,000
		予備費(HP改修)	100,000
計	21,365,000	計	20,440,680
一般会計当期収支差額		924,320	
特別会計: 英文誌関係		特別会計: 英文誌関係	
購読料(正116+学15)	915,600	購読料	915,600
		事務局維持経費	150,000
計	915,600	計	1,065,600
全体		全体	
当期実収入計	22,280,600	当期実支出計	21,506,280
前期からの繰越金	18,993,570	次期への繰越金(予算)	19,767,890

表 平成19年度予算案(平成17,18年度決算との比較)

収入		平成19年度予算	平成18年度決算	平成17年度決算
一般会計				
会費収入		14,513,000	9,267,250	12,335,760
雑収入		622,000	1,350,068	936,281
事業収入		4,130,000	4,703,782	4,691,050
研究発表会		1,800,000	1,631,750	1,738,190
その他		2,330,000	3,072,032	2,952,860
助成金収入		2,100,000	2,300,000	2,100,000
河川整備基金		2,000,000	2,000,000	2,000,000
その他		100,000	300,000	100,000
敷金戻り			1,000,000	
一般会計計		21,365,000	18,621,100	20,063,091
特別会計: 英文誌関係				
購読料		915,600	908,250	575,400
広告掲載費		0	385,000	180,000
一般会計から				
英文誌 計		915,600	1,293,250	755,400
収入合計		22,280,600	19,914,350	20,818,491
支出		平成19年度予算	平成18年度決算	平成17年度決算
一般会計				
管理費		5,492,500	5,454,562	4,809,755
事業費(一般活動費)		12,848,180	9,287,632	11,592,960
会誌編集		5,630,000	3,647,901	5,322,078
ニュースレター		800,000	622,425	781,907
会議費		1,600,000	1,041,754	1,387,545
委員会活動費		1,200,000	951,167	321,669
広報等経費		50,000	0	0
研究発表会		1,298,700	1,128,105	1,654,834
シンポジウム		2,069,480	1,896,280	2,124,927
ポスター作成費		200,000		
その他収益事業費		2,000,000	3,055,852	2,692,311
予備費		100,000		
特別会計へ		0		
一般会計計		20,440,680	17,798,046	19,095,026
特別会計: 英文誌関係				
購読料		915,600	1,082,925 *	620,100
事務局維持経費		150,000	0	78,530
雑費		0	0	9,450
英文誌 計		1,065,600	1,082,925	708,080
支出合計		21,506,280	18,880,971	19,803,106

*平成18年度の事務局維持費15万円は購読料に含まれる。

第５号議案

規約の改正

【規約改正の主な内容】

- ・ 第７麹町ビルの解体・新築にともなう家主都合のため、事務局を移転したい(第２条)。

規約

現行	改正案
第２条 本会は、事務局を東京都千代田区麹町 <u>4-5 第７麹町ビル 25 号室</u> におく。	第２条 本会は、事務局を東京都千代田区 麹町 <u>4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号室</u> にお く。

第 6 号議案

役員の改選

<経緯>

- 平成 18 年度第 10 回総会 規約第 14 条正会員の 1/5 出席および委任状 改正
- 役員候補の募集および推薦
 - 平成 19 年 6 月 28 日発行 NL37 号候補者の届出募集
 - 平成 19 年 7 月 1 日から 31 日まで届出期間 会長候補者山岸 哲さん推薦 1 件あり
 - 平成 19 年 8 月 6 日候補推薦委員会開催 会長、副会長、役員候補推薦決定
 - 平成 19 年 9 月 13 日委任状返送締切

① 会長（１名）と副会長（３名）：規約第 10 条

「次期役員候補選考制度」に基づき候補の届出を募集したところ、会長 1 名の届出があった。
副会長については、候補を募る期間中に届出が無かったので、「候補推薦委員会」を設置し検討した。
次期の会長と副会長について候補推薦委員会から下記の候補を総会に提案する。

[会長]

新会長候補者	山岸 哲	(再任)	((財) 山階鳥類研究所長)
--------	------	------	----------------

[副会長] (50 音順)

新副会長候補者	近藤 徹	(再任)	((社) 日本河川協会会長)
新副会長候補者	辻本 哲郎	(再任)	(名古屋大学教授)
新副会長候補者	森下 郁子	(新任)	((社) 淡水生物研究所長)

② 理事（15 名以内）：規約第 11 条

(50 音順)

荒井 秋晴	(再任) 九州歯科大学講師	
大村 達夫	(再任) 東北大学教授	
沖野 外輝夫	(再任) 早稲田大学特任教授	
奥田 重俊	(新任) 横浜国立大学名誉教授	元理事
角野 康郎	(再任) 神戸大学教授	
竹村 公太郎	(再任) (財) リバーフロント整備センター理事長	
中村 太士	(新任) 北海道大学大学院教授	交流委員長
春田 章博	(再任) (株) 環境・グリーンエンジニア取締役	
古川 整治	(再任) 応用生態工学会大阪連絡責任者	普及委員
間宮 清	(新任) 応用地質(株)代表取締役社長	
森 誠一	(再任) 岐阜経済大学教授	パートナーシップ委員長 副編集委員長、交流委員
山本 晃一	(新任) (財) 河川環境管理財団研究所長	

以上 12 名

③ 幹事長と幹事（15名以内）：規約第12条

次期の幹事長と幹事として、理事会から下記の候補を総会に推薦する。

[幹事長] 江崎 保男 再任 兵庫県立大学教授

[幹事] (50音順)

浅見 和弘	新任	応用地質(株)技術本部	
内田 朝子	再任	豊田市矢作川研究所	交流委員
風間 ふたば	再任	山梨大学准教授	情報サービス委員
鎌田 磨人	再任	徳島大学准教授	編集委員
萱場 祐一	再任	(独)土木研究所	交流委員
熊野 可文	再任	利根川歴史研究会	パートナーシップ委員
清水 義彦	新任	群馬大学准教授	
角 哲也	再任	京都大学准教授	
関根 雅彦	再任	山口大学教授	普及委員
高野 安二	再任	(財)ダム水源地環境整備センター	交流委員
西 浩司	新任	いであ(株)国土環境研究所	元事務局長
小俣 篤	新任	国土交通省河川局河川環境課	
星野 義延	再任	東京農工大学准教授	普及委員
細見 正明	新任	東京農工大学教授	
山本 民次	新任	広島大学教授	

以上15名

④ 監事：規約第13条

小林 光	新任	(財)自然環境研究センター上級職員	元理事
中村 哲己	新任	(株)建設技術研究所東京本社次長	

添 付 資 料

(所属等は2006.12.20現在)

応用生態工学会・役員名簿（第5期）

1. 会 長： ・ 山岸 哲 ((財)山階鳥類研究所長)
2. 副会長： ・ 近藤 徹 ((財)水資源協会理事長)
 ・ 谷田 一三 (大阪府立大学教授)
 ・ 辻本 哲郎 (名古屋大学教授)
 =副会長3名、五十音順=
3. 理 事： ・ 荒井 秋晴 (九州歯科大学講師)
 ・ 沖野外輝夫 (早稲田大学特任教授)
 ・ 大村 達夫 (東北大学教授)
 ・ 角野 康郎 (神戸大学教授)
 ・ 鹿野 久男 ((財)国立公園協会理事長)
 ・ 島谷 幸宏 (九州大学教授)
 ・ 竹村公太郎 ((財)リバーフロント整備センター理事長)
 ・ 竹門 康弘 (京都大学助教授)
 ・ 春田 章博 ((株)環境・グリーンエンジニア取締役)
 ・ 福岡 捷二 (中央大学教授)
 ・ 古川 整治 (応用生態工学会大阪)
 ・ 森下 郁子 ((社)淡水生物研究所長)
 ・ 森 誠一 (岐阜経済大学教授)
 =理事13名、五十音順=
4. 幹事長： ・ 江崎 保男 (兵庫県立大学教授)
5. 副幹事長： ・ 熊野 可文 (利根川歴史研究会)
6. 幹 事： ・ 岩崎 敬二 (奈良大学准教授)
 ・ 内田 朝子 (豊田市矢作川研究所)
 ・ 加賀谷 隆 (東京大学助手)
 ・ 風間ふたば (山梨大学准教授)
 ・ 鎌田 磨人 (徳島大学准教授)
 ・ 萱場 祐一 ((独)土木研究所自然共生研究センター長)
 ・ 清水 康行 (北海道大学教授)
 ・ 角 哲也 (京都大学准教授)
 ・ 関根 雅彦 (山口大学教授)
 ・ 高野 安二 ((財)ダム水源地環境整備センター技術参与)
 ・ 日置 佳之 (鳥取大学農学部准教授)
 ・ 星野 義延 (東京農工大学准教授)
 =幹事(副幹事長含め)14名、五十音順=
7. 監 事： ・ 加藤 昭 ((財)ダム水源地環境整備センター顧問)
 ・ 田畑日出男 (いであ(株)会長)

[第5期役員は、平成17年(2005年)9月30日、第9回総会において選出された。任期は2年、平成19年総会まで
 但し、平成18年(2006年)1月13日に理事1名が逝去したため14名から13名となる]

＜本総会への提案部分は1重下線で示した。＞

応用生態工学会規約

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は、「応用生態工学会」と称する。

(事務局)

第2条 本会は、事務局を東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405号室に置く。

第2章 目的・研究活動

(目 的)

第3条 本会は、「人と生物の共存」「生物多様性の保全」「健全な生態系の持続」を共通の目標に、生態学と土木工学の基礎知識および実際的问题についての研究成果をもとに、両分野の関係者が共同して、それらの境界領域に新しい理論・知識・技術体系である「応用生態工学」を発展・展開させることを目的とする。

(研究活動)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の活動を行う。

- 1 応用生態工学に関する調査・研究活動
- 2 応用生態工学に関する学術講演会、研究会、シンポジウム、講習会、現地見学会
- 3 応用生態工学に関する国内外の調査・研究活動、会議に関する情報の収集と伝達
- 4 応用生態工学に関する調査・研究活動に関する技術援助
- 5 応用生態工学に関する国際的学術交流
- 6 応用生態工学に関する受託事業
- 7 会誌の発行
- 8 その他、本会の目的を達成するために必要な事業

第3章 会 員

(会 員)

第5条 本会は次の会員をもって組織する。

- 1 正会員 本会の目的に賛同する個人
- 2 学生会員 本会の目的に賛同する学生
- 3 賛助会員 本会の目的事業を賛助する個人並びに法人、またはその他団体
- 4 名誉会員 本会並びに応用生態工学の発展に大きな功績のあった個人のうちから、理事会の推薦により、総会において決定される。

(入 会)

第6条 会員になろうとするものは、所定の入会手続きを行わなければならない。

(会 費)

第7条 会員は細則の定めるところにより会費を納入しなければならない。

2 納入した会費は理由を問わず返還しない。

(資格の喪失)

第8条 会員は、次の理由によりその資格を失う。

- 1 本人が書面によって退会を申し出たとき
- 2 会費を滞納したとき
- 3 本会の名誉を傷つけたとき、または本会の目的に反する行為があったとき

第4章 役 員

(役 員)

第9条 本会に役員をおく。

会 長	1 名
副会長	3 名以内
理 事	15 名以内
幹事長	1 名
幹 事	15 名以内
監 事	2 名

(会長及び副会長)

第10条 会長及び副会長は総会において選出される。

- 2 会長及び副会長の任期は選出されてから、次の改選期までとする。ただし、それぞれについては、再任は連続二期までとする。
- 3 会長及び副会長の改選は2年毎に行う。
- 4 会長は本会を代表してその会務を総括する。
- 5 副会長は会長を補佐し、会長に事故のある時はあらかじめ会長が指名した順によりその職務を代行する。

(理 事)

第11条 本会には理事をおき、正会員の中から総会で選出する。

- 2 理事の任期は2年とする。ただし、再任は連続二期までとする。
- 3 理事は理事会を構成し、会務執行のために必要な事項を議決する。

(幹 事)

第12条 幹事長と幹事は理事会の推薦により総会の議決を経て正会員の中から選出する。

- 2 幹事長と幹事の任期は選出された日から次の改選期までとする。ただし、再任はそれぞれについて連続二期までとする。
- 3 幹事長と幹事の改選は2年毎に行う。
- 4 幹事長と幹事は幹事会を構成し、会務執行のために必要な事項を検討する。
- 5 副幹事長は幹事会の推薦により、会長が任命する。

(監 事)

第 13 条 監事は総会において選出する。

- 2 監事の任期は選出された日から次の改選期までとする。ただし、再任は妨げない。
- 3 監事の改選は2年毎に行う。
- 4 監事は本会の会計および会務執行の状況を監査する。

第5章 会 議

(総 会)

第 14 条 総会は正会員により構成され、次の事項を議決する。

- (1) 事業計画及び事業報告の承認
 - (2) 予算、決算の承認
 - (3) 理事及び幹事・監事の承認
 - (4) 規約の変更に關する事項
 - (5) その他理事会で必要と認めた事項
- 2 通常総会は毎年1回、臨時総会は理事会が必要と認めたときに会長が召集する。なお、正会員は、正会員の10分の1が連名し、議事を明記して会長に臨時総会の召集を申し出ることができる。この場合、会長はその開催について理事会に諮るものとする。
 - 3 総会の議長は総会において正会員の中から選出する。
 - 4 総会は正会員の1/5の出席によって成立する。
 - 5 総会における正会員の議決権は各一個とし、議決は出席者の過半数によって決め、可否同数のときは議長がこれを決定する。
 - 6 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。書面により表決した会員は総会に出席したものとみなす。

(理事会)

第 15 条 理事会は会長、副会長、理事によって構成され、本会の基本方針の策定および運営に必要な事項を審議する。

- 2 理事会は会長または理事の三分の一以上が必要と認めたときに開くことができる。
- 3 理事会の議長は会長とする。
- 4 理事会の成立には理事現在数の過半数の出席者を必要とする。ただし、当該事項につき書面をもってあらかじめ意見を表示した者は出席者とみなす。
- 5 理事会の議事は出席者の過半数によって決め、可否同数のときは議長がこれを決定する。
- 6 幹事長は理事会に出席し意見を述べることができる。

(幹事会)

第 16 条 幹事会は幹事長、幹事によって構成され、総会の決定した基本方針および理事会の審議決定に基づき本会の運営を推進する。

- 2 幹事会は幹事長がこれを召集する。
- 3 幹事会の議長は幹事長とする。
- 4 幹事会の成立には幹事現在数の過半数の出席を必要とする。ただし、当該議事につき書面をもってあらかじめ意見を表示した者は出席者とみなす。
- 5 幹事会の議事は出席者の過半数によって決め、可否同数のときは議長がこれを決定する。
- 6 会誌編集委員長は、幹事会に出席し意見を述べることができる。

(委員会)

第17条 本会はその運営等のため、理事会の議決を経て、各種の委員会を設けることができる。

- 2 委員会の委員は会長がこれを委嘱する。
- 3 委員の任期は2年を原則とし、再任は妨げないものとする。

(分科会)

第18条 本会にはその目的達成のため、理事会の議決を経て、各種の分科会を設けることができる。分科会の運営に関しては別に定めるところによる。

第6章 その他

(経費および会計)

第19条 本会の経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってあてる。

- 2 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌3月31日に終わる。
- 3 本会の会計処理は事務局がこれにあたり理事会に報告する。
- 4 理事会は、年度終了後、決算報告を監事の意見を付して総会に提出し承認を受けなければならない。

(規約の改正)

第20条 この規約を改正しようとするときは、総会の議決によらなければならない。

(付 則) 1. 発足時の幹事については、規約12条に係わらず、総会の決議を経て正会員の中から選出する。

2. 本規約は、平成9年10月15日より施行する。
3. 本規約は、平成11年9月18日改正し施行する。
4. 本規約は、平成13年9月29日改正し施行する。
5. 本規約は、平成14年10月5日改正し施行する。
6. 本規約は、平成16年10月1日改正し施行する。
7. 本規約は、平成17年9月30日改正し施行する。
8. 本規約は、平成18年9月30日改正し施行する。

規約細則

(細 則)

第1条 本会の運営は、応用生態工学会規約（以下「規約」という。）および本細則による。

(入 会)

第2条 会員になるには所定の入会申込書記入要領により必要事項を記入し、会費を添えて事務局へ提出するものとする。

(会費納付)

第3条 会費は前納とする。ただし、特別の理由があるときには、6ヶ月ずつ年2回に分納することができる。

(会 費)

第4条 本会の会費については、平成9年度以降次の通りとする。ただし、賛助会員の入会金については、理事会で審議し、これによらないことがある。

- | | | | |
|---|----------------|----|-------------------|
| 1 | 正会員 | 年額 | 5,000 円 |
| 2 | 学生会員 | 年額 | 2,000 円 |
| 3 | 賛助会員 | 年額 | 100,000 円（1口以上） |
| | 入会金 | | 200,000 円（賛助会員のみ） |
| 4 | 名誉会員は、会費を免除する。 | | |

(事務局体制)

第5条 事務局には、理事会の承認のもとに事務局長1名をおく。また、事務局長を補佐する事務局次長をおくことができる。

- 2 理事会の承認のもとに、地域の研究会をおくことができる。各研究会には、連絡責任者をおくものとする。
- 3 研究会の名称は、「応用生態工学会”地域名”」とする

(細則の改正)

第6条 本細則を改正しようとするときは、理事会の決議によらなければならない。

(付 則)

本細則は、1997年10月15日より施行する。

本細則は、1999年6月3日改正し施行する。

本細則は、2000年10月7日改正し施行する。

本細則は、2003年6月14日改正し施行する。

本細則は、2003年9月18日改正し施行する。

＜次期役員候補選考制度＞

第 21 回理事会決定（2003 年 6 月 14 日）

ニュースレターNo. 22 (2003 年 7 月 14 日) 掲載

[1]制度と関連する規約

役員選考制度と関連する学会規約は第 10 条である。

[第 10 条 会長、副会長は総会において選出される。]

[2]制度の対象

本制度で候補を募る対象は、会長（1 名）、副会長（3 名）とする。理事候補については、次年度以降制度の拡充を検討することとし、当面従来どおりとする（[9]参照）。

[3]候補

候補は、自薦・他薦を問わない。正会員 5 名以上の推薦人の名簿を添えて届け出るものとする。

[4]期間

本制度に基づき候補を募る期間は、役員改選年の 7 月 1 日から 7 月 31 日（または総会の 3ヶ月前～1ヶ月前）とする。

[5]届出の様式

候補者の氏名及び推薦人名簿等は所定の様式（学会ホームページに掲載）で学会事務局まで届け出るものとする。

[6]候補推薦委員会

候補を募る期間中に届出がない、または定員に満たない場合は、推薦委員会を設置して候補を選考する。本委員会は、現会長・副会長および会長が指名する 2 名の理事からなるものとする。本委員会は、立候補・推薦期間後～総会までに開催する。

[7]総会での選出

総会では、会長候補・副会長候補となったもののなかからそれぞれ選出する。候補者が複数の場合は総会出席者による投票を行うものとする。

[8]広報

候補を募る方法等については、所定の期間までにニュースレターで会員に案内する。また、学会ホームページに案内を掲載し、一般に公開する。

[9]次期理事・監事候補

次期理事・監事候補については、「候補推薦委員会」で候補を選考する。